

「食の安全安心と食育審議会」における食育推進に関する主なご意見

【平成 31 年度 第 2 回審議会 (H31. 3. 1)】

	主なご意見	対応策
①	若い世代において「朝食を食べる人」の割合が低い。行動変容につながるアプローチ等、工夫が必要ではないか。	ターゲットや取組内容を工夫し、メリハリをつけた事業を行う。(大学生向け朝食摂取率向上プロジェクト、朝食リーフレット活用)
②	高齢者のフレイル対策をさらに推進するべきである。	フレイル予防・改善プログラム (H31.3 健康増進課作成) の普及と活用を促す。
③	食物繊維は摂取不足である。豆類摂取雑穀摂取を薦めて欲しい。	ひょうご“食の健康”運動 (ごはん、大豆、減塩) の一層の推進を図る。
④	魚食の PR についてはさらなる工夫が必要である。	量販店での販促など従来の取組に加え、料理教室や体験漁業等により一層の推進を図る。
⑤	食の健康協力店は県民 PR が不足している。	関係団体と連携した PR、ホームページのリニューアル、放送媒体等で PR する。
⑥	子ども食堂への運営補助金、従事者への栄養・衛生管理指導を希望する。	子ども食堂応援プロジェクトとして、立ち上げ経費を助成。従事者に対しても関係資料の配付など情報提供していく。
⑦	食品ロス問題に関する取り組みを教えて欲しい。	家庭ゴミ削減に向けての普及啓発、フードバンク事業の推進などを行っている。

【令和元年度 第 1 回審議会 (R 元. 7. 26)】

	主なご意見	対応策
①	食育推進のためのボランティア活動の充実強化が必要ではないか。	ホームページに県いずみ会に関する頁を追加し、会員増や組織強化に繋げる。
②	教職員対象の食育研修会に校内栽培野菜や芋の食中毒対策も含めて欲しい。(じゃがいものソラニン食中毒など)	食育研修会に栽培品の安全な食べ方や調理方法を含める。参加した教職員へは、校内職員会議での周知を促す。
③	子どもの魚離れが進んでいる。体験教室は魚食普及に効果的である。	県漁連等が実施している小中学校での料理教室や漁協等が行う小学校向け漁業体験等を支援、連携して実施。
④	企業と行政が連携し、地域の特産品を活かした食育を検討してはどうか。	地域特性をいかした食育や地産地消の好事例を収集し、関係者間で共有する。
⑤	子ども食堂の運営で現場が欲しいのは米。生産者と現場を結びつけるプロジェクトが必要である。	無償であり、提供者の厚意に頼るところが大きい取組である。生産者団体が地域内の福祉団体に農産物を寄贈している例があることから、子ども食堂からもニーズがあることを伝える。
⑥	フードロスと食育、フードロスと食品衛生についても考える必要がある。	食育講習会やイベントでは、料理の食べきり、使い切りレシピ提案等を行う。

